

要点審議事業

# 道路事業 事後評価

## 一般国道45号 おかんよう 尾肝要道路

平成31年3月1日  
国土交通省 東北地方整備局

### 1. 事業の目的と概要(1) 事業完了後5年経過

○事業目的

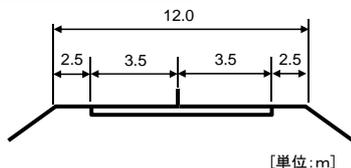
- ・三陸沿岸道路は、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして整備を進めている。当該地域は、壊滅的な被害を受け、唯一の幹線道路である国道45号が、東日本大震災による津波被害により長期間通行不能となった地域である。
- ・尾肝要道路は、自然災害発生時において緊急輸送道路を確保し、三陸南北軸の幹線交通を担うとともに、第三次救急医療施設への速達性・安全性の向上や、冬期における安全な交通の確保等を図るものである。
- ・宮古地方生活圏と久慈二次生活圏の地域間交流に大きく寄与するものとして、三陸北縦貫道路の一部を構成する延長4.5kmの自動車専用道路である。

事業完了後5年経過

位置図



標準横断面図(幅員)



尾肝要道路 計画概要

起終点 : 自) 岩手県下閉伊郡田野畑村田野畑  
至) 岩手県下閉伊郡田野畑村尾肝要

延長 : 4.5 km

道路規格 : 第1種第3級

設計速度 : 80 km/h

事業化 : 平成18年度

用地着手 : 平成21年度

工事着手 : 平成21年度

全線開通年度 : 平成25年度  
(平成26年3月2日)

三陸沿岸道路 尾肝要道路 位置図





## 2. 交通状況の変化等(1) 交通量

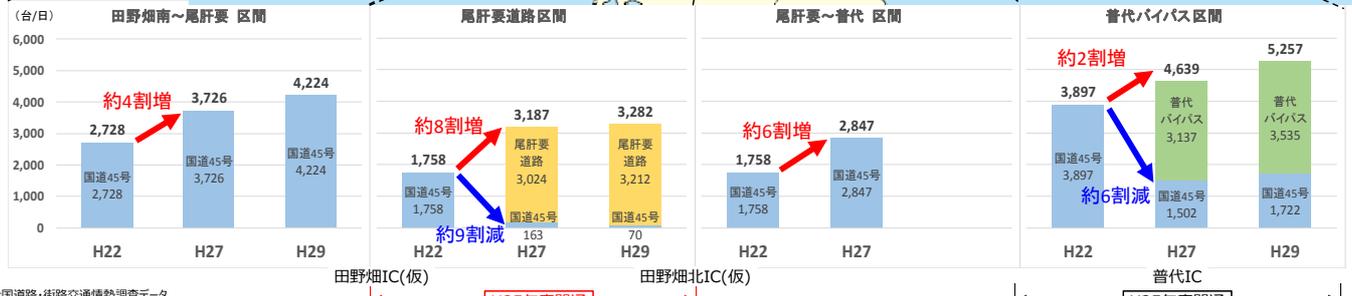
◆尾肝要道路の最新の利用交通量は平均約3,200台/日。

◆尾肝要道路開通後、尾肝要道路区間の断面交通量が約8割・大型車混入率が約14%増加、現道の交通が約9割転換している。

▼H22尾肝要道路区間



▼H27尾肝要道路区間



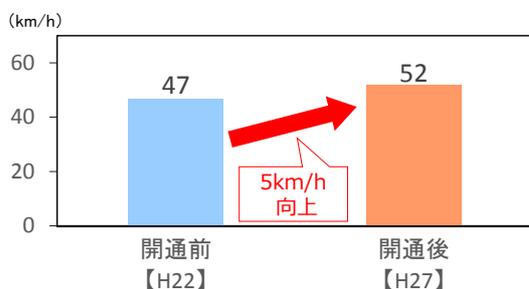
資料：H22、H27全国道路・街路交通情勢調査データ  
 H29.10平日平均車両感知器データ(田野畑南～尾肝要区間、尾肝要道路)  
 H29.10.12(木)交通量調査結果(普代バイパス区間)  
 ※尾肝要道路区間国道45号はH30.3.6(火)交通量調査結果を使用

## 2. 交通状況の変化等(2) 所要時間等

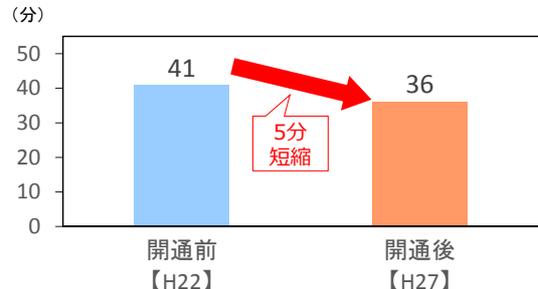
◆尾肝要道路および普代バイパスを利用することで、田野畑村～野田村間の平均速度が約5km/h向上し、所要時間が約5分短縮。



▼田野畑村～野田村間の平均速度の変化(村役場間)



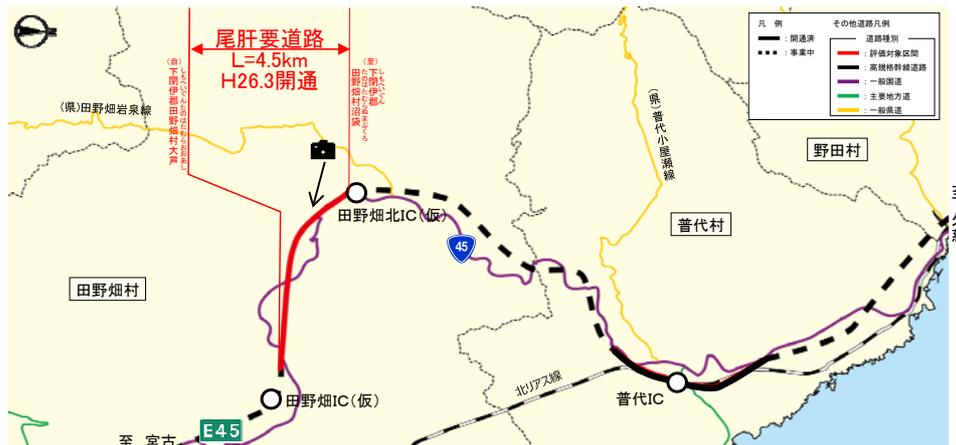
▼田野畑村～野田村間の所要時間の変化(村役場間)



資料：H22、H27全国道路・街路交通情勢調査データ

### 3. 事業効果の発現状況(1) 事故減少

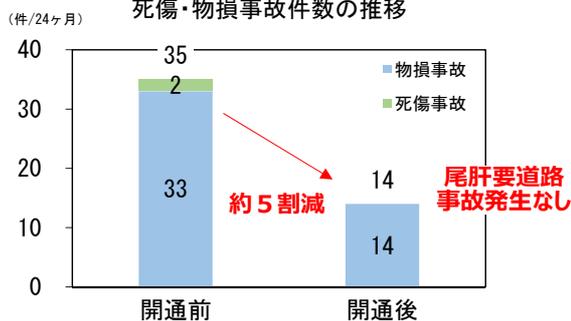
- ◆尾肝要道路の開通により、急カーブ区間・急勾配区間の回避が可能となっている。
- ◆尾肝要道路区間の安全性が向上し、現道の事故件数は5割減少。尾肝要道路では事故が発生していない。



▼尾肝要道路並行現道の線形不良箇所 (凸)



▼国道45号の死傷・物損事故件数の推移



資料：警察提供事故実績, 三陸国道事務所  
 ※開通前：H24年3月2日～H26年3月1日の24ヶ月値  
 開通後：H26年3月2日～H28年3月1日の24ヶ月値

### 3. 事業効果の発現状況(2) 災害時の信頼性が向上

- ◆H18年12月27日～29日の豪雨等、尾肝要道路並行現道(国道45号)で災害による通行規制が発生。
- ◆田野畑村の国道45号には防災点検要対策箇所が4箇所存在し、防災面で整備優先度の高い区間として評価。
- ◆尾肝要道路の整備により代替性を確保でき、災害時の信頼性が向上。



▼要対策箇所の状況(土石流堆積物)



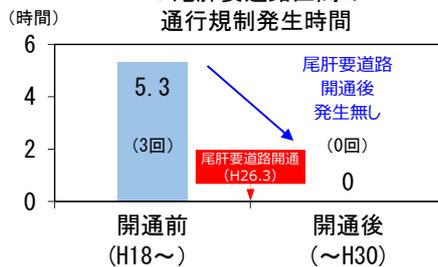
▼集中豪雨による土砂流出 (H18.12.27)



▼尾肝要道路並行現道の立ち往生 (H23.4.19)



▼尾肝要道路区間の通行規制発生時間



資料：三陸国道事務所

通行規制区間・防災点検箇所を回避可能  
 →尾肝要道路により代替性確保

### 3. 事業効果の発現状況(3) 災害時の信頼性が向上

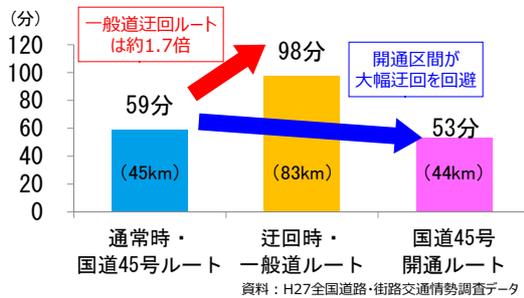
- ◆尾肝要道路並行現道では、降雪・積雪時等にスタックが発生、H23.4月は全面通行止めとなった。
- ◆迂回時の一般道ルートは所要時間約1.7倍、通行止めも頻発しており、更なる広域な迂回が必要となる可能性がある。
- ◆尾肝要道路開通後は降雪・積雪時にスタックが発生しておらず、大幅な迂回を回避し、災害発生時にリダンダンシー機能を発揮。



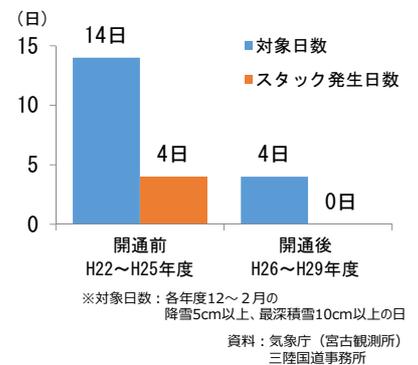
▼尾肝要道路並行現道のスタック状況



▼田野畑村～久慈市間の所要時間(村役場・市役所間)



▼降雪・積雪時のスタック発生状況



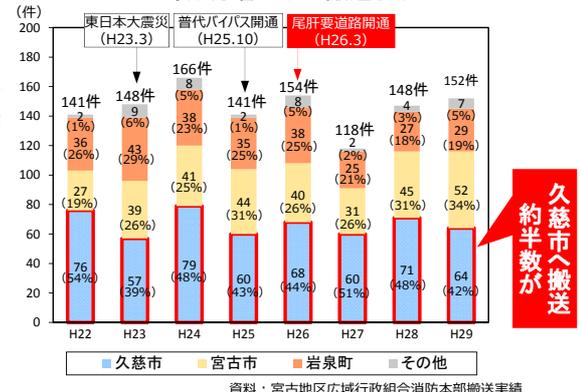
### 3. 事業効果の発現状況(4) 救急医療支援

- ◆田野畑村には診療所が1つしかなく救命救急の受入体制が整っていないことから、田野畑村からの救急搬送の約半数は3次救急医療機関である岩手県立久慈病院へ搬送。
- ◆普代バイパス・尾肝要道路の開通以降、田野畑村の3次救急医療機関60分カバー圏域は人口ベースで約3倍増加、三沿道にルート変更したことで大きな揺れが解消し、患者の負担軽減・安定搬送に寄与。

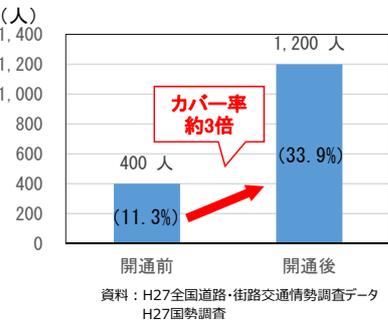
▼田野畑村役場から岩手県立久慈病院への搬送ルート



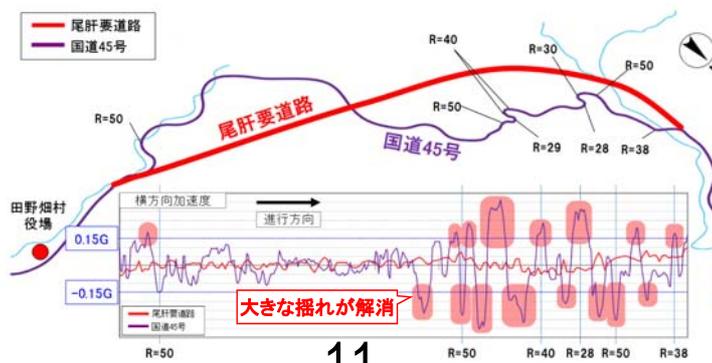
▼田野畑分署からの搬送状況



▼田野畑村における3次救急医療機関60分カバー率の変化(人口ベース)



▼国道45号と尾肝要道路の横揺れの比較 ※実走による加速度調査より



#### 《救急救命士の声》

◆くも膜下出血や脳梗塞などの脳疾患では、血圧の変動が再出血など、命に関わる重症化に繋がりがかねません。尾肝要道路が出来て安定搬送が出来るようになり、患者の負担軽減につながりました。

◆大きな横揺れがなくなり、点滴などのための注射が走行中でも可能になりました。

(H27.2, H30.11 田野畑分署ヒアリング結果)

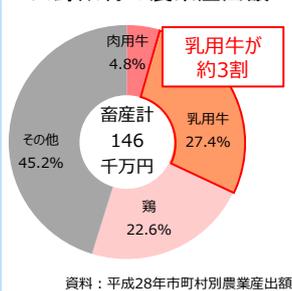
### 3. 事業効果の発現状況(5) 地域産業支援・物流支援

- ◆ 田野畑村では畜産業が主要産業であり、特に、たのはた牛乳は田野畑村のブランドとして関東圏でも販売。
- ◆ 乳製品加工企業では、村内の生乳を入荷・加工し各方面に出荷しており、出荷量は近年増加傾向にある。
- ◆ 尾肝要道路の開通により、商品の安定提供につながり、輸送効率化を支援。

#### ▼たのはた牛乳の主な入出荷ルート



#### ▼田野畑村の農業産出額



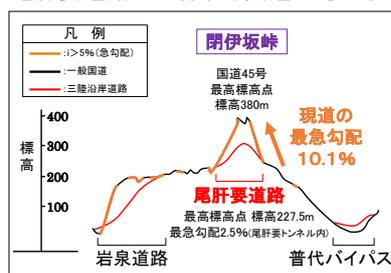
#### ▼乳製品の出荷量の伸び



#### ▼スタック写真(田野畑村姫松:316.1kp)



#### ▼尾肝要道路に並行する国道45号の状況



連続した急勾配等の解消で安定輸送

峠の冬道でスタックすることなく、商品を安定供給

#### 《牛乳製造企業の声》

- ◆ 尾肝要道路等の開通により、国道45号を通る大型トラックが峠の冬道でスタックすることなく、商品の安定供給に結びついた。通勤・買い物圏も広がり非常に便利になった。
- ◆ 早番は深夜2時出社となるため、尾肝要トンネルの整備は、従業員の通勤時のメリットが大きく、冬期においても雪のない路面を走ることができ、安全性が向上した。
- ◆ 震災で田野畑村～釜石市～気仙沼の物流ルートが途絶えた。釜石方面から引き合いもあり、牛乳は製造余裕もあるが、物流が乏しく対応できていない状況。道路整備で販路拡大に繋がる可能性がある。

(H25.12、H29.6 田野畑村産業開発公社ヒアリング結果)

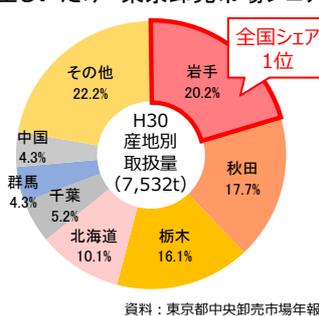
### 3. 事業効果の発現状況(6) 地域産業支援・物流支援

- ◆ 生しいたけの岩手県の東京市場シェアは約2割で全国第1位。
- ◆ 田野畑村のしいたけ生産企業では三治道整備を見越し、しいたけ栽培用のビニールハウス等の設備投資を実施。
- ◆ 道路開通や設備投資等により、生しいたけの売上額は年々増加、H27年度には黒字に転換し、地域振興に寄与。

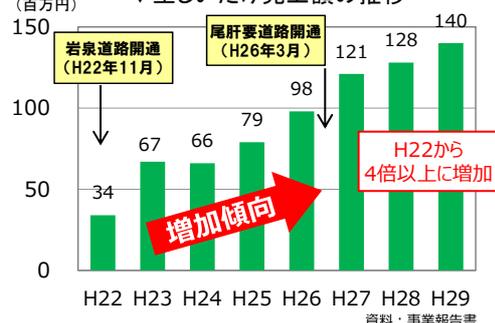
#### ▼生しいたけの主な出荷ルート



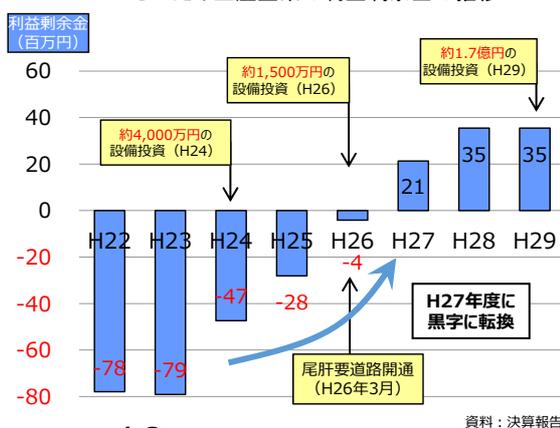
#### ▼生しいたけ 東京卸売市場シェア



#### ▼生しいたけ売上額の推移



#### ▼しいたけ生産企業の利益剰余金の推移



#### 《しいたけ生産企業の声》

- ◆ 尾肝要道路等、三陸沿岸道路が順次整備されていることを勘案し、平成24・26年度に設備投資を実施しました。
- ◆ 今後の三陸沿岸道路の整備を見越し、随時増産のための設備投資を実施します。

(H28.2 しいたけ生産企業ヒアリング結果)

### 3. 事業効果の発現状況(7) 観光・地域交流支援

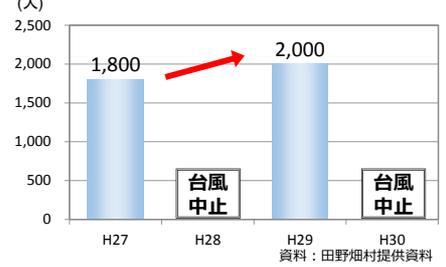
- ◆ 田野畑村では、H26年までは「復興祈念祭」、その後は「たのはた村産業まつり」を開催。
- ◆ イベント開催による入込客数は年々増加しており、尾肝要道路の開通が地域の活性化に寄与。



▼ 復興祈念祭の入込み客数



▼ たのはた村産業まつりの入込み客数



▼ 復興祈念祭会場の状況 ※田野畑村提供写真



#### 《復興祈年祭たのはた村産業まつり・関係者の声》

- ◆ 村外からくる方のうち、**3～4割は久慈方面**からいらっしゃっていると思います。
  - ◆ 平成27年度からは「たのはた村産業まつり」を毎年開催し、村の特産品のPR・販売等を行っています。
  - ◆ 入込み客数が増加しており、尾肝要道路、普代バイパス開通の効果があらわれたものと考えています。
- (H27.3, H30.11田野畑村ヒアリング結果)

### 4. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

別添一覧表参照

### 5. 事業実施による環境の変化

評価対象区間については、工事の実施及び完成後も環境への影響は確認されていない。

### 6. 社会経済情勢の変化

#### ○ 高規格幹線道路の整備状況

##### ・三陸沿岸道路

- 平成26年3月 高田道路開通、平成27年11月 吉浜道路開通、平成29年11月 山田宮古道路開通、平成30年3月 宮古田老道路（田老真崎海岸IC～田老北IC）開通・田老岩泉道路開通、平成30年7月 唐桑高田道路（陸前高田長部IC～陸前高田IC）開通、8月 吉浜釜石道路（吉浜IC～釜石南IC）開通
- 平成31年1月 釜石山田道路（大槌IC～山田南IC）開通
- 平成31年3月 吉浜釜石道路（釜石南IC～釜石JCT）・釜石山田道路（釜石JCT～釜石両石IC）
- ・唐桑高田道路（唐桑小原木IC～陸前高田長部IC）開通予定

##### ・東北横断自動車道釜石秋田線（釜石～花巻）

- 平成31年3月 釜石JCT～釜石仙人峠IC間（L=6.0km）、遠野住田IC～遠野IC間（L=11.0km）開通予定

### 7. 今後の事後評価及び改善措置の必要性

事業の目的に対する効果を概ね発現しており、現時点では事後評価及び改善措置の必要性はない。  
 なお、今後のネットワークの完成等、社会状況等の変化に応じて改めて事後評価を実施する。

### 8. 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

当該事業の整備目的について、連続する2区間による一体的な効果発現を確認できており、事業評価手法の見直しの必要性はない。  
 なお、今後のネットワーク完成にあたり、今回同様ネットワーク全体での効果（特にストック効果）の検証に努める。